

令和7(2025)年6月26日



葛城市立新庄北小学校

トベラの木



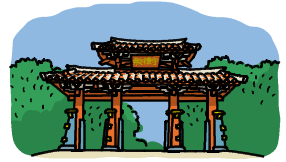
学校だより No.2

校長 中川 純一

6月23日 沖縄慰霊の日

戦争の恐ろしさと平和の大切さ、いのちの尊さ、

そして、今自分にできることを考える



<https://www.bing.com/videos/riverview/relatedvideo?q=%E3%81%8A%E3%81%B0%E3%81%82%E3%81%A1%E3%82%83%E3%82%93%E3%81%AE%E6%AD%8C%E3%80%80%E6%B2%96%E7%B8%84%E6%85%B0%E9%9C%8A%E3%81%AE%E6%97%A5&mid=9216DDF742849275198A9216DDF742849275198A&ajaxhist=0>

↑沖縄全戦没者追悼式「おばあちゃんの歌」の動画

6月23日、沖縄全戦没者追悼式で朗読された豊見城市の伊良波小学校6年、城間一步輝さんの詩、「おばあちゃんの歌」の全文です。

毎年、ぼくと弟は慰霊の日に おばあちゃんの家に行って
仏壇に手を合わせウートーをする

一年に一度だけ おばあちゃんが歌う

「空しゅう警報聞こえてきたら 今はぼくたち小さいから 大人の言うことよく聞いて
あわてないで さわがないで 落ち着いて 入って いましょ防空壕」

五歳の時に習ったのに 八十年後の今でも覚えている

笑顔で歌っているから 楽しい歌だと思っていた

ぼくは五歳の時に習った歌なんて覚えていない

ビデオの中のぼくはあんなに楽しそうに踊りながら歌っているのに

一年に一度だけ おばあちゃんが歌う

「うんじゅん わんにん 艦砲ぬ くゑーぬくさー」

泣きながら歌っているから悲しい歌だと分かっていた 歌った後に

「あの戦の時に死んでおけば良かった」

と言うからぼくも泣きたくなった

沖縄戦の激しい艦砲射撃でケガをして生き残った人のことを

「艦砲射撃の食べ残し」

と言うことを知って悲しくなった

おばあちゃんの家族は 戦争が終わっていることも知らず 防空壕に隠れていた

戦車に乗ったアメリカ兵に「デテコイ」と言われたが
戦車でひき殺されると思い出て行かなかった
手榴弾を壕の中に投げられ おばあちゃんは左の太ももに大けがをした
うじがわいて何度も皮がはがれるから アメリカ軍の病院で
けがをしていない右の太ももの皮をはいで 皮ふ移植をして何とか助かった
でも、大きな傷あとが残った 傷のことを誰にも言えず 先生に叱られても
傷が見える体育着に着替えることが出来ず 学生時代は苦しんでいた

五歳のおばあちゃんが防空壕での歌を歌い
「艦砲射撃の食べ残し」と言われても
生きてくれて本当に良かったと思った おばあちゃんに
生きていてくれて本当にありがとうと伝えようと 両手でぼくのほっぺをさわって
「生き延びたくとう ぬちぬ ちるがたん」
生き延びたから 命がつながったんだね とおばあちゃんが言った

八十年前の戦争で おばあちゃんは心と体に大きな傷を負った
その傷は何十年経っても消えない 人の命を奪い苦しめる戦争を二度と起こさないように
おばあちゃんから聞いた戦争の話を伝え続けていく
おばあちゃんが繋いでくれた命を大切に 一生懸命に生きていく

図書室前に・・・



図書室前廊下や図書室内にも、沖縄戦関連本や平和や戦争について考える本を紹介しています。また、『はらぺこあおむしと戦争と平和』というタイトルで、エリック・カールさんの本をたくさん紹介しています。作者のエリック・カールさんが子どもの頃、世の中は戦争中で、敵に見つからないようにするために、着る服や家などすべてが、“灰色”に包まれた世界だったそうです。そこでカールさんは、「次の世代には、平和で明るい世界を生きてほしい」という願いをこめて、色鮮やかな作品をたくさん描いたそうです。エリック・カールさんの本は北小に20冊ほどあります。どの本にも平和への願いが込められているということを、ぜひ、覚えてほしいと思います。（図書館補助員 井上先生より）